

夏の到来もまだなのに夏服セールが開催中。ファッション意識の高い人は秋の服を着始める。季節はずれや場違いを恐れはないのは、おしゃれな人に共通するメンタリティと見える。

MARIA・シャラポワにいたっては、タキシードウエアに五百三十万円のティファニーのダイヤモンドイヤリングという装いで、記者会見でも質問はそのことに集中した。これで負けたら相当か

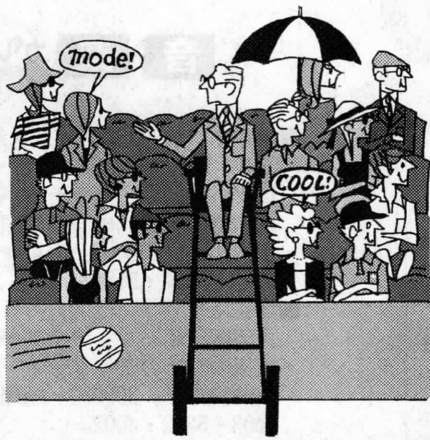
## モードの方程式

中野 香織

テニスコートにおいて同様なのか。ウィンプルドンの晴天下、セリーナ・ウィリアムズが純白のトレンチコートで登場。「運動競技には向かない」と本人も承知のうえ、青空の下でトレンチ。

つこ悪いよなあと案じていたら、あえなく二回戦で敗退。相手がまた悪かった。同郷で同じ年のクドウリヤフツエフで、マリアのファッションが嫌い。それが彼女を負かすモチベーションになっ

## ファッションのココロ



イラスト・飯田 貴子

た」とどめを刺した。父がレスリングの世界チャンピオンというクドウリヤフツエフは、父譲りの闘志を、テニスの勝負というよりむしろ、テニス業界に広がるルック

ス重視のシャラポワ現象に向けたようにも見え、実際、試合は彼女が勝ったのに、報道されたのはシャラポワの写真ばかり。不条理である。シャラポワの試合前の

会見で、ウエアに関する質問の嵐をさえぎったスポーツ記者の質問が引かかる。「退屈なテニスの話をしてもいい?」

もちろんユーモアをまじえた表現だが、たしかに、力の勝負オンリーだと、部外者は時に退屈を感じることもある。「退屈させる」という意味の英語はボア (bore)、もとは「ぼっかりと穴をあける」こと。心に何か空洞を感じることが退屈であるとしたら、目を奪うファッションは、空洞を埋めることで再び心を活性化する手段のひとつなのかもしれない。

次週からはナチュラルライフ研究家の佐光紀子さんが「温故知新のエコライフ」を連載します。

◇

おわり

ご愛読ありがとうございます。(服飾史家)